

(別添)

2019年12月19日

NITE(ナイト)

独立行政法人製品評価技術基盤機構

中国支所

# News Release

点検しましょう。ほこりを払ってキレイに年越し  
～5年で191件、配線器具の火災事故～

## —中国5県版—

### 1. 配線器具の事故発生状況

NITE(ナイト)に通知された製品事故情報<sup>※1</sup>では、配線器具<sup>※2</sup>の事故は、中国地方5県(鳥取県、島根県、岡山県、広島県及び山口県)では2014年度から2018年度までの5年間に15件<sup>※3</sup>ありました。

(※1) 消費生活用製品安全法に基づき報告された重大製品事故に加え、事故情報収集制度により収集された非重大製品事故やヒヤリハット情報(被害なし)を含む。

(※2) テーブルタップ、延長コード及びマルチタップ等。

(※3) 重複、対象外情報を除いた事故発生件数。

#### (1) 中国5県の年度別 事故発生件数

表1に「年度別・県別」配線器具の事故発生件数を示します。

表1 「年度別・県別」配線器具の事故発生件数

年度	鳥取県	島根県	岡山県	広島県	山口県	合計
2014年度			1			1
2015年度		1	3		3	7
2016年度			1			1
2017年度	2	1		1		4
2018年度	1		1			2
合計	3	2	6	1	3	15

## (2) 中国5県の被害状況別 事故発生件数

表2に「被害状況別・県別」配線器具の事故発生件数を示します。

表2 「被害状況別・県別」配線器具の事故発生件数

被害状況 <sup>※4</sup>		鳥取県	島根県	岡山県	広島県	山口県	合計
人的被害	死亡						0
	重傷					1	1
	軽傷						0
物的被害	拡大被害	1	2	5	1	2	11
	製品破損	2		1			3
被害なし							0
合計		3	2	6	1	3	15

- (※4) 人的被害と物的被害が同時に発生している場合は、人的被害の最も重篤な分類でカウントし、物的被害には重複カウントしない。製品本体のみの被害（製品破損）に留まらず、周囲の製品や建物などにも被害を及ぼすことを「拡大被害」としている。

## (3) 中国5県の事故原因区分別 事故発生件数

表3に「事故原因区分別・県別」配線器具の事故発生件数を示します。

表3 「事故原因区分別・県別」配線器具の事故発生件数

事故原因区分	鳥取県	島根県	岡山県	広島県	山口県	合計
A：設計、製造又は表示等に問題があったもの					2	2
B：製品及び使い方に問題があったもの						0
C：経年劣化によるもの						0
G3：製品起因であるが、その原因が不明のもの			1			1
D：施工、修理、又は輸送等に問題があったもの						0
E：誤使用や不注意によるもの			2			2
F：その他製品に起因しないもの						0
G：原因不明のもの（G3を除く）	1	1	3	1	1	7
H：調査中のもの	2	1				3
合計	3	2	6	1	3	15

## 2. 事故事例の概要について

中国5県で発生した配線器具の事故の主な事例を示します。

① 延長コード内に異物が混入し、トラッキングが発生。

2015年11月（山口県、40歳代・女性、拡大被害）

【事故の内容】

延長コード及びその周辺を焼損する火災が発生した。

【事故の原因】

延長コードの電源プラグが著しく焼損し、栓刃の可動部から電源コードのカシメ部までの端子板の一部が焼失していた。延長コードの焼損部を成分分析した結果、当該製品に使用されていない「硫黄」及び「カリウム」が検出され、外郭表面にススの付着が認められた。

このことから、延長コードの電源プラグ内に導電性異物が侵入し、端子板の両極間でトラッキング現象を生じて出火したものと推定される。なお、パッケージの台紙には、「火災のおそれがあるため、水や飲み物などを掛けない、水が掛かる場所では使わない、ホコリや汚れは取り除いて使う。」旨、記載されている。

② 延長コードを使用中、差し込みプラグ付近から火花が出た。

2016年2月（山口県、年齢・性別不明、拡大被害）

【事故の内容】

延長コードを使用中、差し込みプラグ付近から火花が出て、周辺が焦げた。

【事故の原因】

延長コードのプロテクター部の樹脂材料（塩化ビニル）の柔軟性が低いこと、及びプロテクター部の形状、肉厚の影響等により、コードとの境界部に集中的に曲げ応力が加わり、断線・スパークが生じたものと推定される。

③ 水槽ろ過装置から漏れ出した水が延長コードにかかり、トラッキング現象が発生。

2016年3月（岡山県、年齢・性別不明、拡大被害）

【事故の内容】

延長コードに電気製品を接続していたところ、延長コード及びその周辺を焼損する火災が発生した。

【事故の原因】

延長コードは観賞魚用水槽に隣接して設置されており、当該製品の直上には外付けの水槽ろ過装置が設置されていた。延長コードはタップ部の焼損が著しく、タップ部の底面に穴が空き、タップ部の焼損が著しい箇所の電極板が溶断し、周辺に溶融した金属粒が散在していた。

以上より、当該製品のタップ部内部に水分が浸入したため、電極板の異極間でトラッキング現象を生じて出火したものと推定される。

### 3. 配線器具の事故の実験映像について

配線器具の事故の実験映像及び静止画をご希望の場合は、下記のお問い合わせ先までご連絡ください。

なお、映像をご使用の際、クレジットは「製品評価技術基盤機構+NITE のロゴ」としてください。

**(本件に関するお問い合わせ先)**

〒730-0012 広島市中区上八丁堀 6-30 広島合同庁舎 3号館  
独立行政法人製品評価技術基盤機構 中国支所  
担当者 : 灰川、木下、折田  
電話 : 082-211-0411

以上